

報道関係者各位

2022年11月1日
公益財団法人日本デザイン振興会

2022年度グッドデザイン大賞

地域で子ども達の成長を支える活動 [まほうの다가しやチロル堂]に決定

大人も子どもも集まりたくなる、駄菓子屋発・新しい支援の仕組み

公益財団法人日本デザイン振興会（会長：内藤廣、所在地：東京都港区）は、主催事業である2022年度「グッドデザイン大賞」の受賞結果を11月1日(火)に発表しました。

2022年を象徴するデザインである「グッドデザイン大賞」は、本年度グッドデザイン賞受賞1,560件（審査対象数5,715件）より選出された大賞候補であるファイナリスト5件に対して、国内外のデザイナーや建築家、専門家など、各分野の一線で活躍されている97人の審査委員と本年度グッドデザイン賞受賞者および一般からの投票を実施した結果、最多票数を得た「地域で子ども達の成長を支える活動 [まほうの다가しやチロル堂]」に決定しました。駄菓子屋という地域に根ざした場をプラットフォームとし、支援を必要とする子どもたちが気軽に集まりやすい点に加え、この仕組みを支える大人にとっての「学びの場、議論の場」である点にも支持が集まりました。同様の仕組みが日本各地へ広がっていくことへの期待を反映しての大賞受賞となりました。

2022年度グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）

地域で子ども達の成長を支える活動 [まほうの다가しやチロル堂]

受賞者：アトリエe.f.t.、合同会社オフィスキャンプ、一般社団法人無限（いずれも奈良県）



チロル堂は「困っている子ども達のための居場所」ではなく、大人も子どもも、誰でも集まれる「まほう」の駄菓子屋。支援の対象を限定しないことで、本当にサポートを必要とする子ども達が気兼ねすることなく利用できる仕組みです。子ども専用の店内専用通貨・チロル札には、金額以上の買い物ができる「まほう」の秘密付き。訪れる大人が店内で寄付つきの買い物や飲食を楽しむことで、チロル堂のまほうを日常生活の延長で支えています。ここに集まる誰もが嬉しくて楽しめる新しい支援の形に、高い評価と期待の声が集まりました。

大賞受賞者のコメント

チロル堂が奈良で始めてまだ1年あまり、金沢に2号店がオープンして、いよいよ2023年には全国各地でのさらなるチロル堂の展開が本格的に始まります。この場は子どもたちにとっての「楽しい魔法の場」であるだけでなく、実は大人たちがこれから先のより良い社会について学び合うことができる、寺子屋のような場としてもさらに充実させていきたいと考えています。この受賞をきっかけにさらに多くの皆様から関心を持ってもらえることを望んでいます。（吉田田タカシ／アトリエe.f.t. 代表）



お問い合わせ：公益財団法人日本デザイン振興会 グッドデザイン賞事務局

Tel：03-6743-3777 E-mail：info@help.g-mark.org

グッドデザイン大賞【地域で子ども達の成長を支える活動 [まほうのだがしやチロル堂]について】

<https://www.g-mark.org/award/describe/54517>

■概要

貧困や孤独といった環境にある子ども達を、地域みんなで支える魔法の駄菓子屋です。入口におかれたガチャガチャには、通貨の価値を変える魔法が仕掛けられています。「支援対象を限定しない」と発想を転換することで、支援が必要な子ども達にアプローチする機会と、大人が日常生活の延長で寄附をする機会の増加を同時に実現しました。

■デザインのポイント

- 1.誰もが来店しやすい「駄菓子屋」として場を開くことで、孤独や貧困に悩む子ども達の利用を促していること
- 2.1枚100円の価値がある店内通貨「チロル札」1枚で、子ども達は通常500円のカレー等が食べられること
- 3.「魔法」の仕掛けである「寄付」を、飲食や買い物に付随させ日常の延長でのサポートができること

■背景

日本では、子どもの約7人に一人が貧困状態にある（厚生労働省国民生活基礎調査）といわれています。そんな子ども達や保護者に、無料や安価で栄養のある食事や団欒を提供する「子ども食堂」が全国的に広がっているものの、孤独や貧困に苦しむ子ども達が利用しやすい場所なのかという疑問を感じていました。知らない人に「困っている」「お腹がすいた」と助けをを求めることを恥ずかしく思っ躊躇する子、いつどこで子ども食堂が開かれるのか調べられない子もいるはずだからです。この問題を解決するために、「困っている子ども達の居場所」といった直接的・限定的な表現ではなく、どんな子ども達も集まりたくなる目的を別につくり、支援が必要な子ども達が気軽に利用しやすい場所にすること。さらに活動を持続させるためには、行政等からの補助金等ではなく、子ども達を想う大人たちの想いが寄附という形で寄せられる仕組みが必要だと考えました。

■審査委員の評価

子どもが分け隔てなく集える場としての「駄菓子屋」。この場所だけの新しい貨幣価値「チロル札」。する側もされる側も気を遣い、程度を見極めることが難しい「支援」という課題を乗り越えるために、2021年10月にスタートしたチロル堂。この取り組みに賛同した小さな子どもを持つ5人の母たちが2022年7月、金沢に二号店をオープンさせた。初期投資の負担が少ない駄菓子屋という仕組み。チロル堂が全国各地に展開する日もそう遠くなさそうだ。

【グッドデザイン大賞について】

グッドデザイン大賞は、その年の全てのグッドデザイン賞受賞対象の中で、社会性、時代性、提案性などの面で最も優れているとされるデザインです。1980年の制定以来、時代を象徴するシンボリックなデザインとして、日本の社会におけるデザインのマイルストーンの役割を担っています。

【2022年度グッドデザイン大賞決定方法について】

今年度は、10月7日(金)～31日(月)まで、ウェブサイト上で一般からの投票を受け付けました。さらに11月1日(火)の大賞選出会において、ファイナリスト5組のプレゼンテーションを実施し、今年度グッドデザイン賞受賞者と審査委員が投票を行い、全ての票を合計して、最多得票を得た1件がグッドデザイン大賞に決定しました。